

## 市民活動促進条例策定に向けた市民アンケート調査（H18年9月実施の抜粋）

### 1 調査概要

アンケート調査の回答状況は、市民として住民基本台帳から無作為抽出した10歳代～70歳代の男女を年代ごとに人口比で割り返した人数の合計2,983人からまとめたものである。

### 2 アンケートの回収状況

	市民
発送数(不現住等除く)	2,983
最終報告数	917
補正後回答率	30.7%

(※ 以下、表の数字は全て%、複数回答可とあるもの以外は択一回答)

### 3 市民活動への参加状況

参加したことがない	過去に参加したことがある	現在参加している
① 62.5	② 19.2	18.3

### 4 現在参加していない理由

忙しくて時間がなくなった	健康や体力に自信がなくなった	経済的な余裕がなくなった	行ってきた活動に飽きた、興味がなくなった	行ってきた活動に限界を感じた	一緒に活動してきた仲間がいなくなった	活動する場所がなくなった	家族の理解や協力が得られなくなった	一緒に活動してきた仲間と関係が悪くなった	その他
①51.1	②32.3	11.8	8.1	6.5	6.5	5.9	3.2	2.7	③14.5

### 5 今まで参加していない理由

忙しくて時間がない	活動団体や活動内容に関する情報がわからない	参加するきっかけがつかめない	参加するほどの知識や技術がない	健康や体力に自信がない	経済的な余裕がない	一緒に活動してきた仲間と関係がない	関心や興味がない	活動する場所がない	家族の理解や協力が得られない	その他
①49.6	②38.0	③33.4	31.4	24.4	22.5	17.5	16.6	6.9	1.9	3.5

### 6 札幌市の市民活動の動向に対する印象について

わからない	あまり活発ではない	やや活発	活発ではない	活発
① 50.6	② 22.7	③ 16.8	7.5	2.4

### 7 市民活動の活性化に必要なこと（3つまで回答可）

活動団体や活動内容などの情報提供の充実	気軽に参加できる講座や研修会の充実	学校での授業や課外活動への市民活動の取り入れ	活動が活きる場の整備	資金提供や寄付を行う仕組み・制度の整備	活動に相関する窓口の実現	活動を行う団体の交流の場の場の用意	その他
① 73.2	② 57.4	③ 35.7	29.6	18.4	17.9	15.5	2.8

### 8 市民活動促進による効果として期待すること

身近な課題の解決	住みやすい地域の創出	市民活動への参加の機会の増加	経済・景気の向上	きめ細やかな公共サービスの実現	特になし	その他
① 41.8	② 25.7	③ 16.7	6.6	4.8	2.9	1.6

## 1. 調査概要

### I. 調査の目的

#### ①アンケートの目的

近年、札幌市内において、身近な防犯・防災活動や高齢者・子どもの見守りなど、身近なまちづくり活動が活発に展開され、多くの方々の関心が高まっている。

しかしながら、一方で、「参加するきっかけがつかめない」、「活動に対する情報が不足している」などの声もあり、参加したくても、なかなか参加できない方々がいるのが現状となっている。

そのため、札幌市では、市民の皆さまに、まちづくり活動への参加についてどのように考えているのかをお伺いし、自らのニーズやライフサイクルに合わせて、少しでも活動に参加できるような環境づくりを一層進めていきたいと考えている。

そこで、最近、話題となっている「団塊の世代」を中心としたシニア世代に着目し、今後のまちづくり活動における支援施策の検討のため、まちづくり活動に関わる市民意識調査分析を実施することとした。

#### ②アンケート調査の内容

##### (1)調査方法

- ・地 域 札幌市全域
- ・調査対象 市内に居住する昭和17~27年生まれの個人
- ・標本数 3,000
- ・抽出方法 層化二段階無作為抽出法
- ・調査方法 郵送(往復)による調査
- ・調査期間 平成19年3月

##### (2)調査項目

- ・まちづくり活動への参加状況について
- ・まちづくり活動への参加・関わり方について
- ・パソコン・携帯電話の使用状況について
- ・まちづくり活動に関する学習、体験について
- ・まちづくり活動の継続・発展について
- ・まちづくり活動に対する意見について(自由記述)

##### (3)回収状況

- ・有効回収数 799 (26.6%)

## 2. 調査要旨

### I. まちづくり活動への参加状況について

- ① これまでにまちづくり活動への参加については、「参加したことがある（現在参加している）」が 32.9%（263 人）、「参加したことがない」が 67.1%（536 人）となっており、約 1/3 の方がまちづくり活動への参加経験がある。
- ② 参加したことがあるまちづくり活動は、「地域の清掃やリサイクルなど地域の環境美化活動」が 66.2%（174 人）と最も高い。

### II. まちづくり活動への参加・関わり方について

- ① 今後のまちづくり活動へは 73.6%（588 人）が「参加したい」と参加意欲が高く、参加経験者の 2 倍以上となっている。「参加したくない」理由は、「時間がない」、「身体的に難しい」等となっている。
- ② まちづくり活動への参加意欲は、「参加したい」では 58～60 歳が 77.3%（228 人）と最も高くなっている。
- ③ 参加経験のあるまちづくり活動では、「地域の清掃やリサイクルなど地域の環境美化活動」が 66.2%（174 人）と他より抜きんでている。今後に参加したいまちづくり活動でも、最も高いが 44.0%（259 人）に減少している。
- ④ まちづくり活動へ活かしたい知識、能力、技術では、「特に考えていない」が 26.4%（155 人）と最も高く、次いで「地域の環境美化やリサイクルに関する知識・技術」が 17.7%（104 人）となっている。
- ⑤ まちづくり活動への参加可能な頻度は、「週 1 回程度」が 37.1%（218 人）と最も高いが、「毎日」の回答は無かった。
- ⑥ まちづくり活動への参加可能な時間は、「半日」が 56.6%（333 人）と最も高くなっている。
- ⑦ まちづくり活動への参加活動形態は、「町内会などの住民組織の一員として活動したい」が 31.1%（183 人）と最も高く、特に男性は「町内会などの住民組織の一員として活動したい」が 37.9%（96 人）と高くなっている。
- ⑧ まちづくり活動の可能な活動範囲は、「住まいの区内」が 37.6%（221 人）と最も高い。一方、「隣近所程度」「歩いて 10 分程度の範囲」「小学校の通学区域程度」「中学校の通学区域程度」を合わせると 48.6%（286 人）となり、歩いていける程度の範囲を望む方も多くなっている。
- ⑨ まちづくり活動を始めるにあたり必要な情報は、「まちづくり活動を行うためのノウハウや基礎的知識」が 61.4%（361 人）と最も高くなっている。
- ⑩ まちづくり活動に参加するにあたり必要な情報の入手方法は、「広報さっぽろなどの行政機関の広報誌」が 81.1%（477 人）と最も高く、次いで「町内会からのお知らせ（回覧板）」が 58.3%（343 人）となっており、紙を媒体とするメディアが上位となっている。一方、電子媒体である「インターネット（ホームページ）」と「パソコン、携帯電話の Eメール」は、両者を合わせても 2 割程度となっている。

### Ⅲ.パソコンや携帯電話の使用状況について

- ①パソコンの使用状況は、「パソコンが使える」が 55.4% (326 人) を占め、性別では男性が 66.0% (167 人)、女性が 46.5% (148 人)、年齢別では 55～57 歳が 68.4% (80 人) で年齢が高くなるに従い低い使用状況となっている。
- ②携帯電話の使用状況は、「携帯電話が使える」が 74.3% (437 人) を占め、性別では男性が 84.6% (214 人)、女性が 65.4% (208 人)、年齢別では 55～57 歳が 81.2% (95 人) で年齢が高くなるに従い低くなっている。

### Ⅳ.まちづくり活動に関する学習、体験について

- ①まちづくり活動を学習、体験できる機会があった場合の参加の意向は、「参加したい」が 90.0% (529 人) と高くなっている。
- ②希望する学習、研修の形態は「実際の活動を体験する研修」が 72.0% (381 人) と最も高く、性別では男性が 69.9% (160 人)、女性が 73.9% (210 人)、年齢別では 55～57 歳が 73.8% (79 人) と最も高くなっている。
- ③希望する参加頻度・期間は、「週 1 回で 1 ヶ月程度」が 34.2% (181 人) と最も高いが、男性は女性に比べ「1 日限り」や「数日間」の短期型の実施希望が多く、逆に女性は男性に比べ「週 1 回で 1 ヶ月程度」や「週 1 回で 3～6 ヶ月程度」と長期型の実施希望が多くなっている。また、高い年齢ほど「週 1 回で 1 ヶ月程度」や「週 1 回で 3～6 ヶ月程度」と長期型を希望する傾向にある。
- ④希望する 1 回あたりの参加時間は、「3～4 時間程度」が 56.5% (299 人) と最も高いが、男性は女性に比べ「3～4 時間程度」の実施希望が多く、逆に女性は男性に比べ「1～2 時間程度」の実施希望が多い傾向にある。また、高い年齢ほど「3～4 時間程度」を希望する傾向がみられ、低い年齢ほど「1～2 時間程度」の実施希望が多い傾向となっている。

### Ⅴ.まちづくり活動の継続・発展について

- ①希望する他の個人や団体との交流の場は、「同じ内容の活動をする個人・団体が集まる情報交換の場」が 66.2% (389 人) と最も高く、次いで「活動内容を紹介するイベントなどの機会」が 65.0% (382 人) となっている。
- ②有償のまちづくり活動への参加は、「活動内容によるので有償・無償は問わない」が 64.8% (381 人) と最も高いが、「有償で活動したい」と「どちらかといえば有償で活動したい」を合わせると 24.8% となっている。女性は男性に比べ「有償で活動したい」や「どちらかといえば有償で活動したい」の実施希望が多い傾向にある。また、年齢別では年齢が高くなるほど「有償で活動したい」と「どちらかといえば有償で活動したい」を合わせた回答が多くなっている。

### Ⅵ.「まちづくり活動」に対する意見について（自由記述）

「まちづくり活動に対する意見」では、「情報提供」・「交通費等、札幌市からの支援」・「町内会単位からのまちづくり」等に関する意見が多い。

## 町内会・自治会に関するアンケート調査結果報告書(平成19年3月)

### 1 調査目的

町内会・自治会(以下、「町内会」という。)は、最も多くの市民が加入する住民組織であり、地域のまちづくり活動の中核を担っている。

本調査は、今後の町内会を中心とした地域のまちづくり活動が一層活発になるために、どのような取り組みを進めるべきか検討するにあたり、町内会の活動の現状と課題、今後の活動などについて町内会長のご協力を得てアンケート調査を行ったものである。

### 2 調査の内容

- (1) 調査時期 平成18(2006年)年10月2日～10月31日
- (2) 調査対象 市内の町内会長(2,158町内会の代表者)
- (3) 調査方法 調査票の郵送による配布及び回収
- (4) 調査項目
  - I 町内会の基本的な事項(加入世帯数、町内会費など)について(問1～問4)
  - II 町内会活動の現状と課題、今後の町内会活動について(問5～問9)
  - III 市が町内会にお願いしている仕事、今後、市がすべきことについて(問10、問11)
  - IV 町内会長の年齢、性別などについて(問12～問15)

### 3 調査の回答数など

- (1) 調査票発送数 2,152通(2,158を発送、うち6通が住所不備で返送)
- (2) 回答数 1,553通
- (3) 回答率 72.2%

### 4 調査結果の概要

別紙のとおり

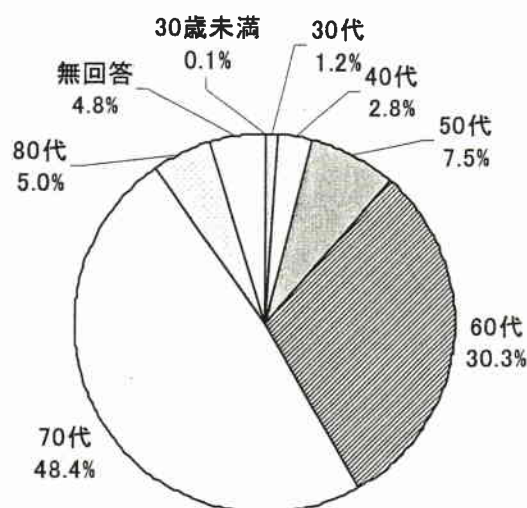
## 2. 年代

町内会長の年代で、最も多いのは「70代」の752人（48.4%）であり、次に多い「60代」の471人（30.3%）と合わせると、全市で8割近くを占める。

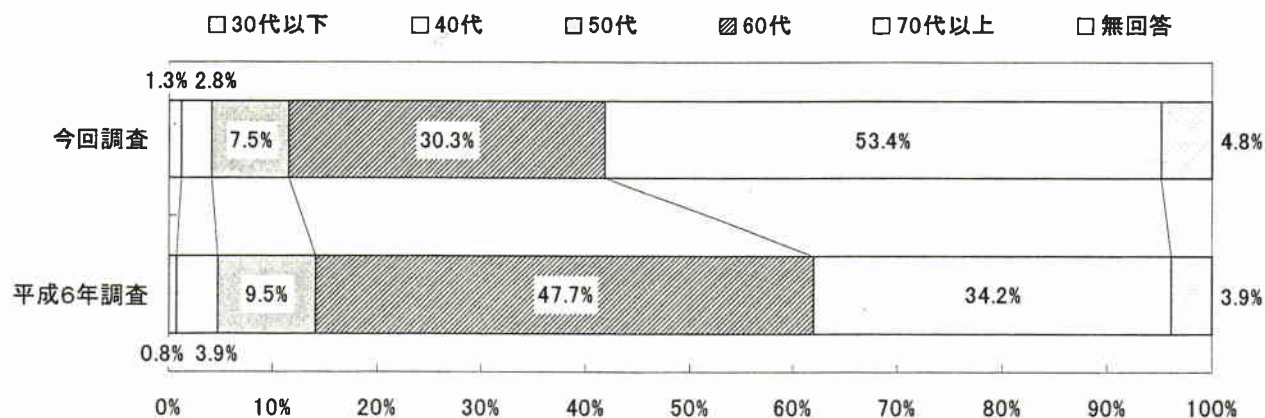
一方、60歳未満の町内会長は178人（11.6%）となっている。

また、平成6年調査と比較すると、「60代」の構成比が47.7%から30.3%に低下している一方、「70代以上」の構成比が34.2%から53.4%に増加しており、町内会長の高齢化が進んでいることがうかがえる。

図表V-2 年代



図表V-3 年代（平成6年調査との比較）



※選択項目調整

今回調査「70代以上」は、「70代」と「80代」の合計

## 8 町内会活動を行う上での課題

町内会の課題(※)としては、多い順に「役員のなり手が不足している」が92.6%、「特定の人しか参加しない」が85.8%、「活動の参加者が少ない」が84.1%、「役員が高齢化している」が81.2%となっており、よく言われる役員の高齢化や担い手不足が如実に反映されている。

また、「活動内容が慣例化している」が80.9%、「世代間交流が難しい」が70.0%となっており、新たな取り組みが不足がちであることや世代間のギャップという課題認識がうかがえる。

さらに、他の課題としては、「予算が不足している」は40.6%、「未加入世帯が多い」は40.5%、「活動や会議をする場所が少ない」は35.0%という結果であった。

※ 「町内会活動を行っていく上で、課題となっていることはどのようなことであるとお考えですか」(調査票：問8)の回答のうち、「①そう思う」、「②どちらかといえばそう思う」を合わせた割合。

### 8. 町内会活動を行っていく上で課題になっていること

■ ①そう思う ■ ②どちらかといえばそう思う □ ③どちらかというと思わない □ ④そう思わない

